口頭発表

[II-29-01_03]栄養・飼養（ II-午前）

Chairman:Hajime Kumagai

Fri. Mar 29, 2019 9:00 AM - 9:30 AM 第II会場 (8号館8302講義室)

9:10 AM - 9:20 AM

[II29-02]ダイコン残渣およびパイナップル残渣のインビトロ法による反芻家畜用飼料として評価

○yan Liu chun[1], misora ozaki[1], shunta kogure[1], reio suzuki[1], yuuki miyata[1], hideki sumi[1], sanae asano[1], hiroshi kajikawa[1], kei takahashi[2] (1.NIHON Univ. COLLEGE OF BIORESOURCE SCIENCES, 2.kankyoutekushisu)

【目的】食品加工の過程で発生するダイコンとパイナップルの残渣は，高利用性飼料としての特性が期待される．本試験では両残渣の消化・発酵特性をイビトロ法により評価した．【方法】両残渣（ダイコン，パインと表記）の化学成分と併せて抗酸化能（ FRAP)や硝酸 Nを分析した．フィステル装着牛のルーメン内で経時的に培養するインシチュ法により消化パラメータを求めた．また嫌気的バッチ培養により経時的な発酵特性を測定した．対照飼料としてイタリアンライグラス（ IRG)とコーンを用いた．【結果】飼料成分（ OM， CP， NDP，％DM)ダイコンが89，9，34で，パインが95，7，60であり， FRAPがそれぞれ IRGの0.7倍と3.4倍であった．DMのインシチュパラメータ(aとｂ％ＤＭ， kd%/hr)はダイコンで94，6，7.0，パイン20，68，4であり，ダイコンで溶解性が高く，パインでコーンと類似の反応を示した．発酵特性（総ガスと VFA）はコーンと比べてダイコンが同等の，パインが多少低い傾向を示した．ダイコンはメタン産生を強く抑制し，培養初期に乳酸産生を示した．

©Japanese Society of Animal Science